

しんみなと

# 新湊地区 (三期)

(富山県射水市)

- 計画期間 平成30年度～令和3年度
- 面積 116ha
- 交付対象事業費 520百万円
- 市人口 91,458人

**ポイント** 庁舎跡地を有効利用した公共交通の結節点及び地域の交流拠点を整備する。また、点在する観光施設を結ぶ観光ネットワークの構築。

**地区概要** 内川周辺は古くから歴史と文化が栄えた町で、みなとまちの街並みや美しい水辺回廊は、映画のロケ地に採用され全国的にも注目され観光人口が増加している。

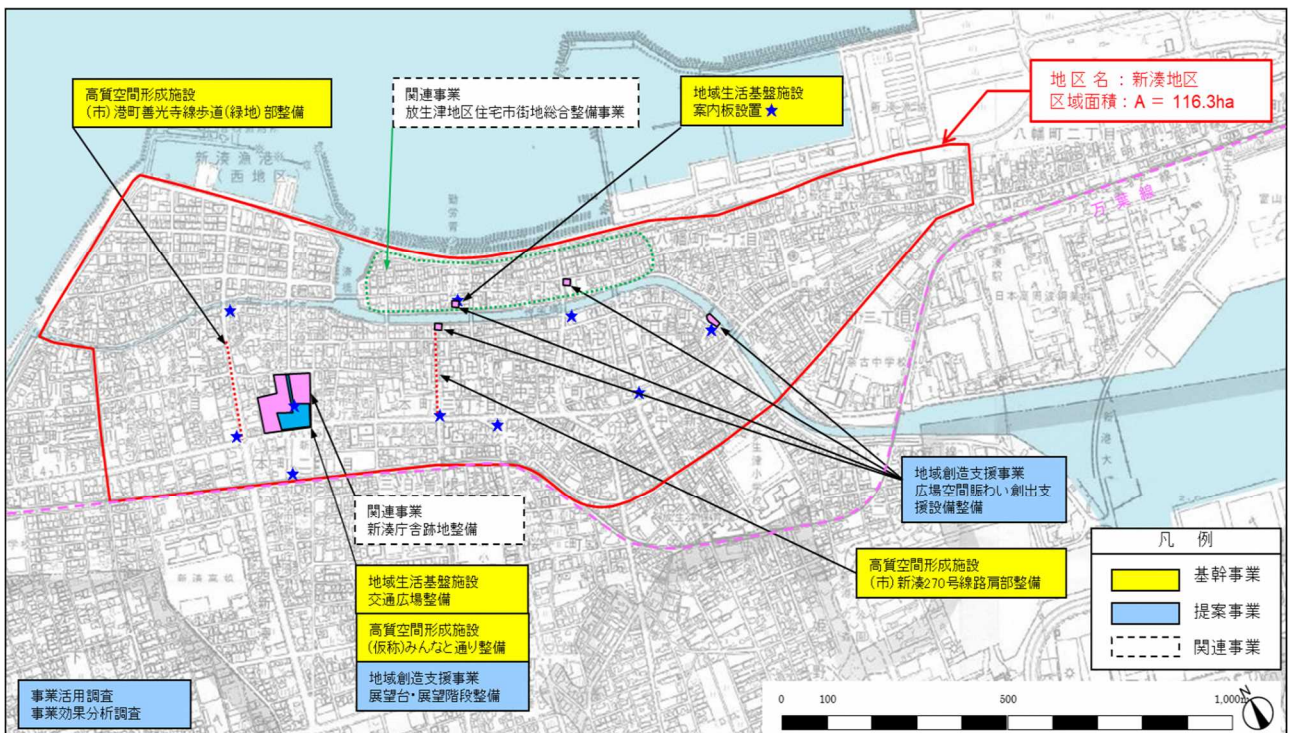
**目標** 中心市街地の魅力再生と内川から中心市街地への景観づくりによる活力あるまちづくり

**指標** 交通広場や内川周辺の整備などを通して、中心市街地の活性化と回遊する際の快適性の向上が図られたことを確認するために、西新湊駅乗降客数、ロケ地来訪者(川の駅)数、地区内人口数を指標に設定した。

西新湊駅乗降客数	233,027人/年 (H26) → 147,800人/年 (R3)
ロケ地来訪者(川の駅)数	35,439人/年 (H26) → 25,300人 (R3)
地区内人口数	7,864人 (H29) → 7,172人/年 (R3)
複合交流施設入込客数	0人 (H30) → 79,700人/年 (R3)

## 事業内容

- 基幹事業 (436.6百万円) → 地域生活基盤施設 (交通広場整備・案内板設置)、高質空間形成施設 (3箇所 L=471m)
- 提案事業 (83.4百万円) → 広場空間賑わい創出支援設備整備 (6箇所)、展望台・展望階段整備 (2基)、事業活用調査 (事業効果分析調査)



## 地区の現況と課題

### 庁舎跡地利活用による中心市街地の活性化

公共施設の統廃合により本地区の中心部に立地していた新湊庁舎は廃止され、中心部の賑わい低下が危惧されている。庁舎跡地利活用については、公共交通広場と複合交流施設の建設を計画している。複合交流施設には多目的・コンベンションスペース、観光案内施設等を導入予定としている。中心市街地を活性化させるために、公共交通の利便性と市民交流機能の向上を図りたい。

### 観光客受け入れ態勢の確保

本地区は、映画のロケ地として観光客は増加しているが、観光協会等から大型バスの駐車スペースが不足しているとの要望があり、観光客を十分に受け入れにくい状態である。このことから、交通広場を整備し安定的な交流人口の増加を目指したい。

また、新たな観光の玄関口となる交通広場から内川を中心とした豊富な観光資源へと誘導する案内板の整備を行い、観光客の利便性を高め、地区の魅力向上に繋げる。

### 内川と中心市街地を結ぶ景観づくりの創出

現在、狭隘な歩道で歩行者が安全に通行しにくい状態である。この状況を踏まえ、暗渠化した準用河川の上部空間を有効利用し、歩車道分離した安全な歩行空間を整備することで、地元住民や交通広場利用者が内川へ観光する際の主要な誘導通路となる。

## 提案事業の特徴

### 広場空間賑わい創出支援設備整備事業

まちづくり団体等が企画するイベント時（内川十楽の市、十楽夜祭、内川ジャズライブ等）に照明・音響設備、イベント車両などのための電源供給設備等を設置する。

## 計画策定プロセス

### 第2次射水市総合計画

快適で住みよいまちづくりの一環として、市街地を流れる河川等の水辺空間や歴史ある街並み等を活かした個性的で魅力あるまちづくりを進めるとしている。

### 射水市都市計画マスタープラン

西部臨海地域のまちづくりの基本方針として、「潤い環境を活かした、風情と賑わいのある“みなと”のまち」を地域の将来像に掲げ、①水辺空間などの活用による人々が増えるまちづくり②にぎわいにあふれた活力ある地域づくり③災害に強い安全・安心な地域づくりの3つを基本方針に掲げている。



▲公共交通広場と複合交流施設(クロスベイ新湊)



▲展望台・展望階段整備



▲展望台からの曳山観覧



▲準用河川の上部空間を利用した歩道整備



▲観光資源豊富な内川へと誘導する案内板